



子どもたちの笑顔を守るために私たち大人ができることを考えてみませんか

知っていますか 「ヤングケアラー」

子どもたちの未来、地域で守ろう

11月は「児童虐待防止推進月間」

皆さんは、家族の介護や家事、身の回りの世話などの負担を強いられている18歳未満の子ども「ヤングケアラー（子どもケアラー）」のことを知っていますか。近年、深刻化する児童虐待問題に加え、手伝いの範囲を超えて年齢に見合わない責任や負担を強いられている彼らの存在が社会問題化し、その多くは負担の大きさに対する自覚がないため、地域で相談できる環境づくりなどの支援の必要性が指摘されています。ここでは、11月の「児童虐待防止推進月間」にちなみ、国の調査結果などからヤングケアラーへの理解を深めながら、子どもたちの未来を守るために私たちにできることは何かを考えます。

家族の世話する子どもは 中学2年生の17人に1人



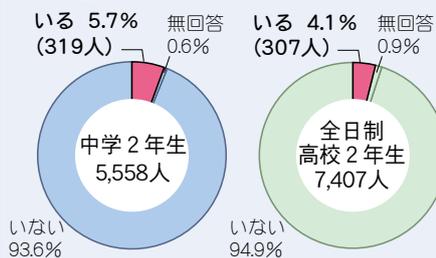
今年3月に国が公表した「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」では、調査対象となった中学2年生約5500人の約17人に1人、全日制高校

国による実態調査

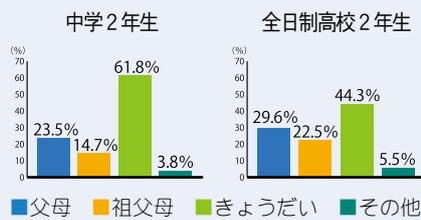
ヤングケアラーの実態に関する調査研究
(厚生労働省・文部科学省)

調査時期：令和2年12月～令和3年2月

■世話をしている家族がいますか



■誰の世話をしていますか(複数回答)



皆さんの周りに「家族の世話で大変そうなお子」や「家族がアルコールやギャンブルなどの問題を抱えている子」などはいませんか。もしかしたらその子はヤングケアラーかもしれませぬ。自分の家族に相談できる状況にない子どもたちのために、地域

2年生約7400人の約24人に1人が家族の世話をしていることが分かりました。世話の対象で最も多いのが「きょうだい」で、次に多いのが「父母」、その次が「祖父母」となっていて、世話をしている子どもの約6割が周囲の人に相談をした経験が無いと回答しています。世話をしている状況や負担の大小は、家庭の事情や本人の受け止め方

大人に相談しやすい環境づくり必要

で見守りや声掛けなどの支援に取り組み、子どもが大人に相談しやすい環境づくりを進めることが求められています。

その環境づくりは、周囲の私たち大人がヤングケアラーのことを正しく理解することから始まるのです。

その自身を追い詰める 本人や家族の「当たり前」

によって異なりますが、幼いころから家事や家族の介護などを担っていると「自分がやっていたり前」「自分がやるしかない」と思い込み、負担の大きさへの自覚がありません。

ヤングケアラーとしての経験が、生活力の向上や病気・障害への理解が深まるなど、子どもの成長に良い影響があるとされる反面、家族や親族からも「この子がやって当たり前」と思われてることで、子どもたちは自己犠牲の状況から抜け出せなくなります。

さらには子どもであるが故に行政サービスや支援を知らず、周囲にも相談できないという状況がその子を追い詰め、孤立させてしまいます。

◆問い合わせ 町健康子ども課母子保健係(☎82-3111内線604)へどうぞ。